

中一 国語科通信

第2号
令和元年7月31日
国語科1年担当
福之内・狭間・奥池



梅雨の獅子

文章を論理的に読み解く「論理の虎」はだいぶ定着してきました。六月に入り始まったのは、「百字の獅子」。これは表現力を養う取り組みで、月に一回、三つのテーマの中から好きなものを選び、それにちなんだ百字の文章を自由に作文するというもの。テーマは①その月のイメーシカラー②風物③祝日に関すること。六月は、イメーシカラーが「紫」、風物は「雨」、祝日は無いので、「結婚」にしました（「ジューン・ブライド」、わかります?）。各クラスの秀作を二点ずつ、紹介しますね。

〈雨〉 「雨の日の気分」

一組 福永心陽
雨の日は、はじめとじているが、落ちついた気持ちになる。しかし、空があまりにもどんよりと暗くなり、誰とも話すが見づからなくなる。雨の日は、不思議な気分になる。

▼人間って、天気な気持ちを左右されてしまうくらい、弱い生き物なのですね。

〈雨〉 「梅雨とは」

一組 村山 寧
この時季になり雨が降ると、私は、毎年「もう梅雨入りしたのか」と思う。毎年、四、五月はあわただしく、その四、五月が終わわり六月になるとその年の生活リズムになる。そんな六月の始まりを教えてくれるのが梅雨だ。

▼自分の生活リズムの変化を季節の移り変わりと共に感じる……なんか素敵ですね。

〈雨〉 「思いの雨」

二組 狭間 二葉
小学生の頃、狭間は雨が降るととても悲しかった。毎日毎日昼休みに外で遊んでいた私にとって、雨は最低最悪なものだったのだ。だから今、雨が降ると、外で遊べないこと残念がっていたあの頃のことをなつかしく思い出す。

▼単純に「雨は嫌いだ」と言うだけの文章が多かった中で、小学生の時を振り返って書いたところにセンスを感じます。

夏の午後口に運べる氷より
心地よき銀の匙のつめたさ

〈紫〉 「美しく完璧ななすび」

二組 福嶋 華那
なすびは完璧な野菜だと私は思う。みんなは「嫌いだ」とか「形が変」とか言うけれど、日に当たっている時は輝いて見えるし、雨の時は水がはねて、より美しく見える。春夏秋冬、どんな日も美しいなすびが私は大好きだ。

▼最初の一文にインパクトがあってとても引きつけられます。なすびの美しさを、映像のように表現できているところも素晴らしい！

〈雨〉 「花のようなかさ」

三組 中里 美結
雨といったら、色とりどりの花が咲いているようなたくさんのかさを思い浮かべる。黄色、緑、赤などのたくさんのかさが右に行ったり左に行ったり回ったりして、まるで風に吹かれてゆれているたくさんのかさのようだ。

▼「雨」から色とりどりの傘につなげるという発想力、そしてそれを比喩を用いてうまく表現しているところが素晴らしいと思います。

〈紫〉 「きれいな紫色」

三組 谷口 南実
紫と思ったら、アサガオやアジサイなどのきれいな花を思い浮かべる。どの花もすみわたるような美しい紫色をしていて、道などに咲いていると、つい見ってしまう。まるで、生きている宝石のようにきらきらと輝いている。

▼「生きている宝石のよう」という表現がいいですね！ みずみずしい紫色の花びらが目に浮かぶようです。

「夏休みだからこそ！」

奥池 大和

さあ皆さん、夏休みです！ 中学生になり、これまでとは一味違った夏の過ごし方になるのではないのでしょうか？ そこで皆さんにオススメしたいことがあります。

キーワードは《体験》！
今の世の中は便利です。自分の好きなものやきれいな風景を、画面を通していつでも見られます。

ただし！ 重要なのは自分の目で直接見て、直接触れて、直接感じることももちろん、他者の感動を自分も共有することは良いことだと思います。しかしそれだけではなく、ぜひ自らの感覚を頼りに様々な体験をしてください。新しいことに挑戦してみるのもいいですね。毎年行っている地元のお祭りも、これまでとは違った見え方ができるかもしれません。様々な「体験」をして、自分の可能性を広げていきましょう！

大切なのは、夏休みだからこそできることをするということです。それが皆さんのより良い成長・より良い未来につながります。この夏の過ごし方が、今後の人生を左右するかもしれません。「やるときはやる！ 遊ぶときは遊ぶ！」というメリハリのある生活を心がけましょう。

八月十六日には皆さんがどんな成長をした姿になっているかを、本当に楽しみにしています。安全に注意して、学びを大切に、脳みそを動かして、これまでは一味違った忙しい夏を、存分に満喫してくださいね！

とうとう待ちに待った夏休み！ 疲れた体をしっかり休めて、元気に戻ってきてくださいね。